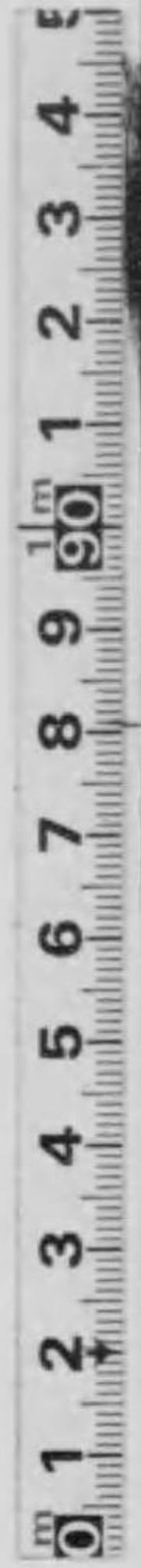


亞東印畫輯

自第一回  
至第十二回



始



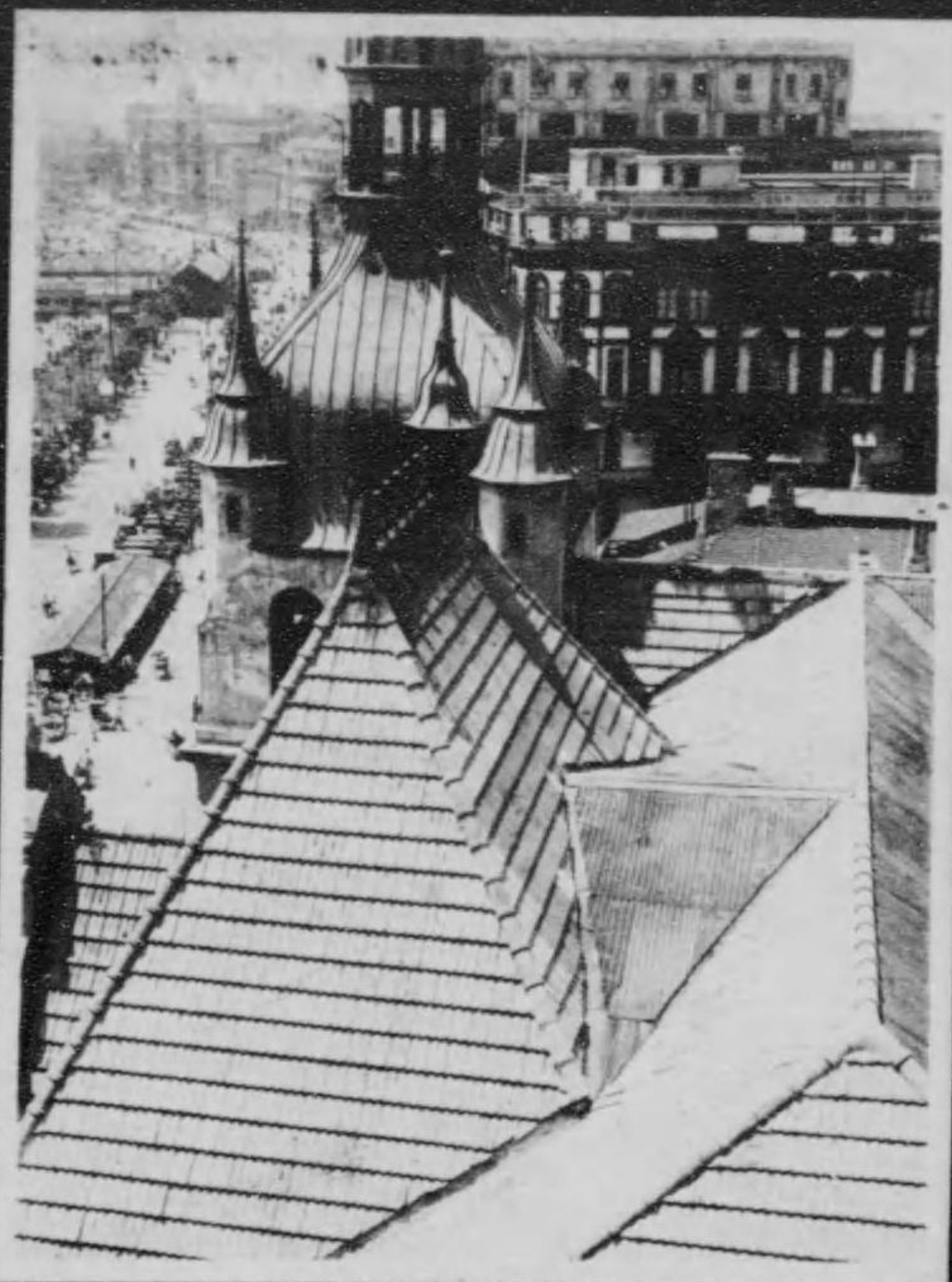
423

215

亞東印圖輯

第 第  
十 一  
二 回  
回





● 黄浦灘路二バンド (上海)

文明の列強の各、對色の上は外に海際、市として世界の諸民、二十七年の混戦、居  
 明の列強の各、對色の上は外に海際、市として世界の諸民、二十七年の混戦、居  
 象の通商口岸、地を以て、今から、急激な人口増加、現存の建築、最近の  
 的、地を以て、今から、急激な人口増加、現存の建築、最近の  
 知、地を以て、今から、急激な人口増加、現存の建築、最近の  
 正、地を以て、今から、急激な人口増加、現存の建築、最近の  
 洋、地を以て、今から、急激な人口増加、現存の建築、最近の  
 一、地を以て、今から、急激な人口増加、現存の建築、最近の  
 (印の複製を認す)

大正  
15. 5. 15  
購求





◆メーリン廟喇嘛の塔 (蒙古)  
 開蒙から一百年を以てメーリン廟の喇嘛部族につ  
 く、此の喇嘛廟は内蔵中にも有数なるもので外則精麗共に  
 壯麗である。廟内にある二基の喇嘛塔はその彫刻布  
 彩装飾の表裏に於て頗る異調を呈して居る。恐らく西藏  
 直轄のものであろう、五輪の頂上にある桃型の裝飾は日  
 月を象徴したものだ。

(種板番號 三六七)



◆興安嶺の樵夫 (北滿)

頭からツマ先迄毛皮を以て裝身した樵夫  
 達の服装は烏龍山には人か獸か判然しな  
 い、幕下の樵に呼吸が凍結して霜花をつけ  
 て居るのも奇觀だ、丸太小屋の光景も此人  
 達には好い対象である。

(白雲の複製はお断りします)



◆牛肉の斧割(北滿)  
牛肉の片塊は凍結して全く石塊の如く堅い、大なるものは鋸で挽きそれを粗上斧を以て割つて之れを賣るのである。零下四十七度の寒さを體驗しないものには全く想像もつかない現象である。  
(印畫の複製はお断りします)



◆木の都吉林  
松花江上流で伐り出された巨木は、装として流され、吉林の碼頭に集る、かくして吉林は正に木の都である。水雪に埋れた江山の畔りにある町は淋しい。  
(印畫の複製はお断りします)



◆ 氷上の帆掛船 (營口)

結氷に封ぜられた遼河の奇観は此の帆掛船が、氷上のヨットとして冬の行樂に或は遊樂に用ゐられて居る。

(印畫の複製はお断りします)



◆ 松花江の結氷 (北滿)

冬季哈爾濱の気温は零下三十度から三十四五度位に下降する、哈爾濱の生命とても謂ふ松花江は、十一月から翌年四月迄全く結氷に封ぜられて一大氷原が出現し、兩岸の交通は陸上と異ならざる聯絡を保つに至るのである。

(印畫の複製はお断りします)



◆松花江上のサーニ (北滿)  
 驢馬に米かきとサーニがチリン／＼と鈴を鳴らして銀  
 盤のやうな氷上を滑つて行く、自動車は怪物のやうな響笛  
 を鳴らして自然のトラックを走らざる、今迄河一筋に依  
 つて開かれた兩岸には冬に應はしいロイマンズが取り  
 交付されるのであらう。  
 (印書の写真はお断りします)



◆興安嶺の落葉松 (北滿)  
 零下四十度の寒さ、シヤツタリはもう利かない、雪は銀  
 粉の如く大気の中にもら／＼と降る中を、脚を没する積雪  
 を踏みつけて登つた、山中の樹上に體を括りつけて凍した  
 のは此寫真だ、お處で右手の指四本はトウ／＼凍傷にか  
 づて了つた。  
 (印書の写真はお断りします)





◆ 雪中の樵作業 (北滿)  
 融雪の四十七度の興安嶺森林中は壯麗なる霜の花によつて飾られてゐる、此の山中に伐木作業をする光景を見たものでなくては労働の苦の味は解らないのである。ペーチラの前に寝コロンで居る郷舎人の到底想像もつかない世界なのだ。  
 (印畫の複製はお断りします)



◎ 大廣場の朝 (大連)  
 大連市のセントラルパークとして情調の源泉がのやうに、緑も爽やかな草に木々に初夏のうるほひをたへ、往き交ふ人の足どりがろく、なごやかな空気に光されて居る。  
 (印畫の複製をお断りします)



◆ 夜 克 (大連)

幾百隻となく集ったジヤンクが、霧  
帆を乾かしてゐる光景である。油を流  
した様な雨上りの朝、露西亜町沖は此  
等のジヤンクに依つて埋められてゐる  
(印葉の複製を厳禁す)



◆ アイスクラケット

冬の戶外遊戯の中あくまでも男性的の爽快さを感じし  
ものはスケートである。そうしたスケート遊戯の中の  
アイスクラケットは最近漸く上下人士の口の上つるやうに  
なつたが、昔は冷感質に於けるものである。  
掲寫を御覧り致します



◆ 橇遊び (ハルビン)  
 坂道の如く勾配をつけたアソビ場  
 路を作つて頂上から橇を滑らして遊  
 ぶ。頗る痛快にして冬の遊びとして  
 一のものだ。  
 模写を御送り致します



● 農事試験場の放牧 (産 業)  
 公主嶺附屬地にある農事試験場羊の放牧である。  
 同試験場は遼洲の綿羊メーノール種を輸入し蒙古在來種  
 に交配して其の改良と羊毛の自給を圖りつゝある。  
 (種畜の複製を御禁す)



● 支那老人

(風俗)

支那の百姓程平和の愛好者であるまい。大軍の上に  
 懸へる彼の姿の朴訥さよ、一服の臭ひ煙草によつて脚  
 足を得る種々の煙天家たるその顔面の皺の一端にも僅は  
 れざる人間味の愛と健康の兆徴がある。

(印畫の複製を嚴禁す)



● 鴨綠江の筏

(安東)

鴨綠江よして名高い筏船である。筏の上に小屋を造  
 つて居るのも奇觀だ。筏よじ歌ひ乍らに潮を聽せば船  
 の揺つて鳴く情景を家族と共に味ふことが出来れば  
 船頭の生活は幸福といふべしである。

(印畫の複製を嚴禁す)



● 奉天驛頭の乗物の集合 (奉天)  
 滿洲の中央驛なる奉天驛頭に集る乗物の光景だ。露西亞式の純馬車、英吉利風の箱馬車、日本式の人力、支那流のカマゴ馬車、それに加ふるに自動車といふ對照、また飛行機のないのが情しい。汽車の發着毎に此等の交通機關が雲集轟音する有様はしるべき。  
 (印畫の複製を感せず)



◆ 興安嶺森林中の牧牛  
 放牧された牛群は海拔四千尺の興安嶺山林中酷寒にさらされて平氣に生棲してをる。此處の氣温のレコードは零下四十七度ださうだ。  
 複寫を御歸り致します



◆ 興安嶺の森林  
興安嶺森林の伐採事業を經營して居るものに札幌公司がある。其區域は約四國大の廣さを包有してゐるに依つてもほゞその事業を遂げることが出来る。此寫眞は落葉松林相の一部である。  
複寫を御斷り致します



◆ 積裝中の抽作業  
札幌公司の作業場には山から伐出した木材をスレツパーに製材して居る労働者の兩旁には實に驚異に値するものがある。  
複寫を御斷り致します



◆ 穴居生活

地下数丈の穴を掘穿してそれに屋根をさしかけた上に土をかけた小山のやうに高くする。この土層に見ゆる小屋は砂盤状で土中から突立て居るのが頗る地下幾箇の室に分れて居る住居には適した住居だ。

撮影を御断り致します



◆ 雪の興安嶺

興安嶺は北滿森林中の最も大なるものである。此寫眞は大興安嶺の分水嶺海拔四千尺の一點點で、西北は朝北萬里の蒙古沙漠に連る。雪の興安嶺連帯である。

撮影を御断り致します



◆ 札幌会社のスレツパ―置場  
 四國大の廣袤を有する森林地帯から  
 伐出さるゝ木材の量は常に無限である  
 東支鐵道、鐵用のスレツパ―は皆此處  
 から供給される。  
 振寫を御覽り致します



◆ 海凍る (大連)  
 不凍港と銘打った大連も怪れに凍る事がある。湖の流干と無心の風の鋭れから氷塊は宛として南北兩端を穿突たらしむる壯觀を呈し限りなく美しい。  
 振寫を御覽り致します





◆ 氷上の荷役 (大連)

朔風日に海氷を加へて行くに連れて、奥地特産の出  
廻りを運搬し、大連埠頭出入の船舶も次第に繁きを加へ  
る頃、時として溜泊船を氷で閉すことがある。そして平  
雪ならば氷凍幾少尺の氷上に荷車利用の荷役が開始され  
る。写真は遼東の荷役作備の光景である。

複製を御断り致します



◎ 豆粕荷卸作業

油房から埠頭構内に搬入された、その豆粕の積卸作  
業は一種の技術を要する。彼の豆粕を最も敏捷に完全  
に貨車から卸すには普通二枚づつ、前後ふのが原則とな  
れて居る。

(印畫の複製を厳禁す)



● 特産物の野積

大連埠頭境内の露天に於ける貨物貯蔵は多い時は五十萬噸から上る、奥地から南下する特産の出荷最盛期には寫眞のつうな光景を呈する、而して貯積貨物には往々火災の起るので有名だ。

(印畫の複製を嚴禁す)



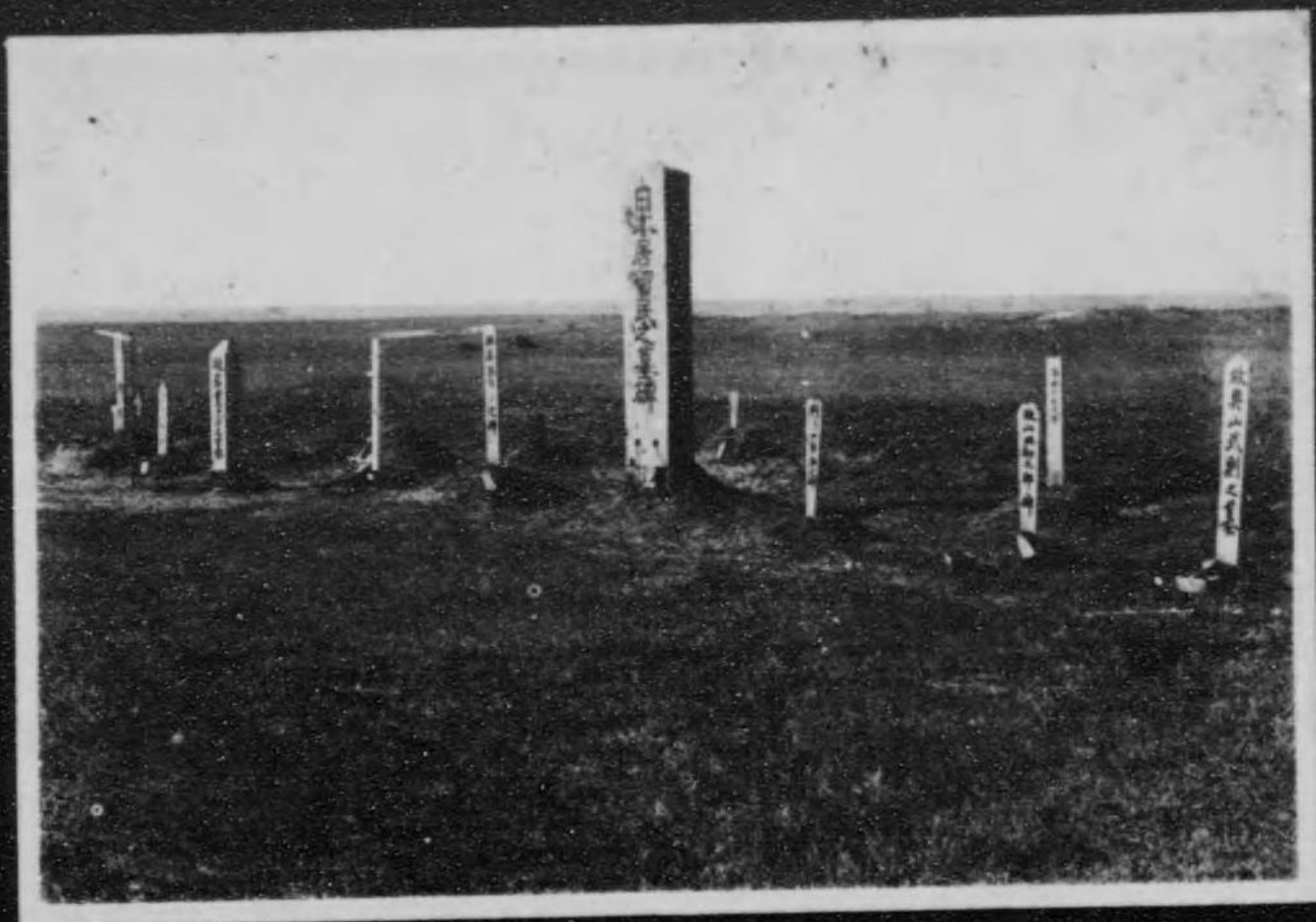
● 遼河の流水

結氷期前の遼河も二月の節分あたりから何處もなく春めいた気分が醸き出す。今まは流板のやうに張りつめた遼河の壁水が春の心にゆるめられて一夜燃ろしい爆音を立て、雄麗した水は、不整形の大塊小塊の連珠を流して上流から押し流して来る有様は物凄い光景だ、兩岸の船人は春の水を見て狂気のやうになつて河心に乗り出してゆく。

(印畫の複製を嚴禁す)



● 蘇る遼河の春  
 河を生命とする船人等は、牛歳の長き結氷期に閉ざ  
 込められて来ん春を待ち度びた。死せるが如き冬枯の  
 世界に大江の水は氷の下に流れて居たのだ。春は地  
 の底より湧く。めぐる期節のおたまりに春は先づ河水  
 を温めてあの堅水の覆を取り除かうとする。解氷の日  
 の河を見たものはさながらの自然の戦ひに感ずるであ  
 り、それは掃蕩と激動と絶望と凄愴な光景である。  
 冬眠から目醒めた唇の市街は河岸のかたに春の光  
 に輝く。  
 (印象の複製を原稿す)



● 曠原の悲劇 (北疆)  
 東支河部種族拉爾の郊外に邦人の墓地を見出した時  
 自分は無量の感傷に熱い涙の落つるのを禁じ得なかつ  
 た。満家の第一線上の末裔に倣する此曠原の一角に埋  
 めた同胞の墓は何にを言々に語る。  
 (印象の複製を原稿す)



● 呼倫貝爾原頭の放牧

東支線西側端が興安嶺を越けて外蒙古地帯に差かかると呼倫貝爾の曠原である。一望千里といふ文字通りの平原に牛群の大集團が放牧されて居るのを見るが之れは附近の部落から各農家の飼養する二頭三頭の牛を集めて日々に野外に放牧するもので、普通の監視者としての若き牧夫に委託されるのである。

(印畫の複製を嚴禁す)



● 角山寺附近の展望 (山海關)

最近の奉天戦に關する原の如き争鬪場となつて激戦を交へた角山の一部には展望の雄を以て著名な角山寺がある。山麓に立てば海深なる渤海の碧波を天澤に懸け一壺の石河は自息となつて大地に迂曲する。左方脚下に薄く角形の影を作つて見ゆるものは即ち山海關城である。

(印畫の複製を嚴禁す)



● 大磐石の家 (山海湖を隔河)  
 大陸の民衆には何處かにユーロペクな性格が窺んでゐる。大磐石の奇蹟を利用して岩窟とは全然趣きを異にした家屋を築んでゐる。其處には頗るなるべき生活に何れしらの暗示を投げずには居ない。然も山海湖を隔河附近に見出した遺蹟は大磐石の家にも、奉直職の影響があつて、物も雑さず割奪されて荒れ果てたよ、となつてゐるに至つては、尙更に皮肉である。  
 (印度の複製を脱却す)



● 砂丘の罫 (蒙古)  
 蒙古人の葬式には大體三種の風習がある。富者の階級に属するものは大葬にして其骨を粉砕し、麥粉と共に練り固めて之を甕罫に納葬す。漢人の俗を模倣したものは屍を棺に納めて埋葬する。それから一般平民の間に行はれるものは屍を山頂又は谷底に抛んで埋葬の類の或味に委する風習がある。若し山野に散置したる屍にして三日を経ても何野鼠の咬味なき時は喇嘛僧を招じて、經符誦申するさうだ。  
 (印度の複製を脱却す)



● 駱 駝 隊

陸上の船といはるる駱駝は蒙古でも大張りその大曠原を進行する時の船として帝賞がられて居る、自費大車等外甚れか、つた雲の日に、あのトロンと鳴る風の鈴音が聞けた時、何んとも言へない至言情緒に浸される  
(印畫の複製を嚴禁す)



● 大豆 囤 積 (開原にて)

特別の出産りに醸造酒類の各器に堆積する大豆の罐蓋は買に大いしたものだ、此季節に機軸の屋先にはアレンペア開きの貯蔵庫が急造される、之れを地と稱して簡易な造作であるが穀物類の蓄積には理想的のものである、一山約五百六十五(百二十)坪の容量を有し高一丈六尺、直徑十尺位、屋根の構造も勿論風に堪へられるものだ、貯蔵大豆を取出す時には開復に穴を明け、自然に流出させる點など却々勞力手数の簡略法として妙を傳へ居る  
(印畫の複製を嚴禁す)



● 苦 力 (開原にて)

苦力の勞働力は絶對的に物物化されて居る點に於て、殊に世界に比類のないものである。彼等は最低限度に於ける食糧の保證を與へられて居るならば決して他に多きを求めない。常勤苦力の給金月僅かに五圓を出でず、彼等の勞働時間は一日僅に十五時間を働くのである。

(印畫の複製を嚴禁す)



● 錦 州 漬

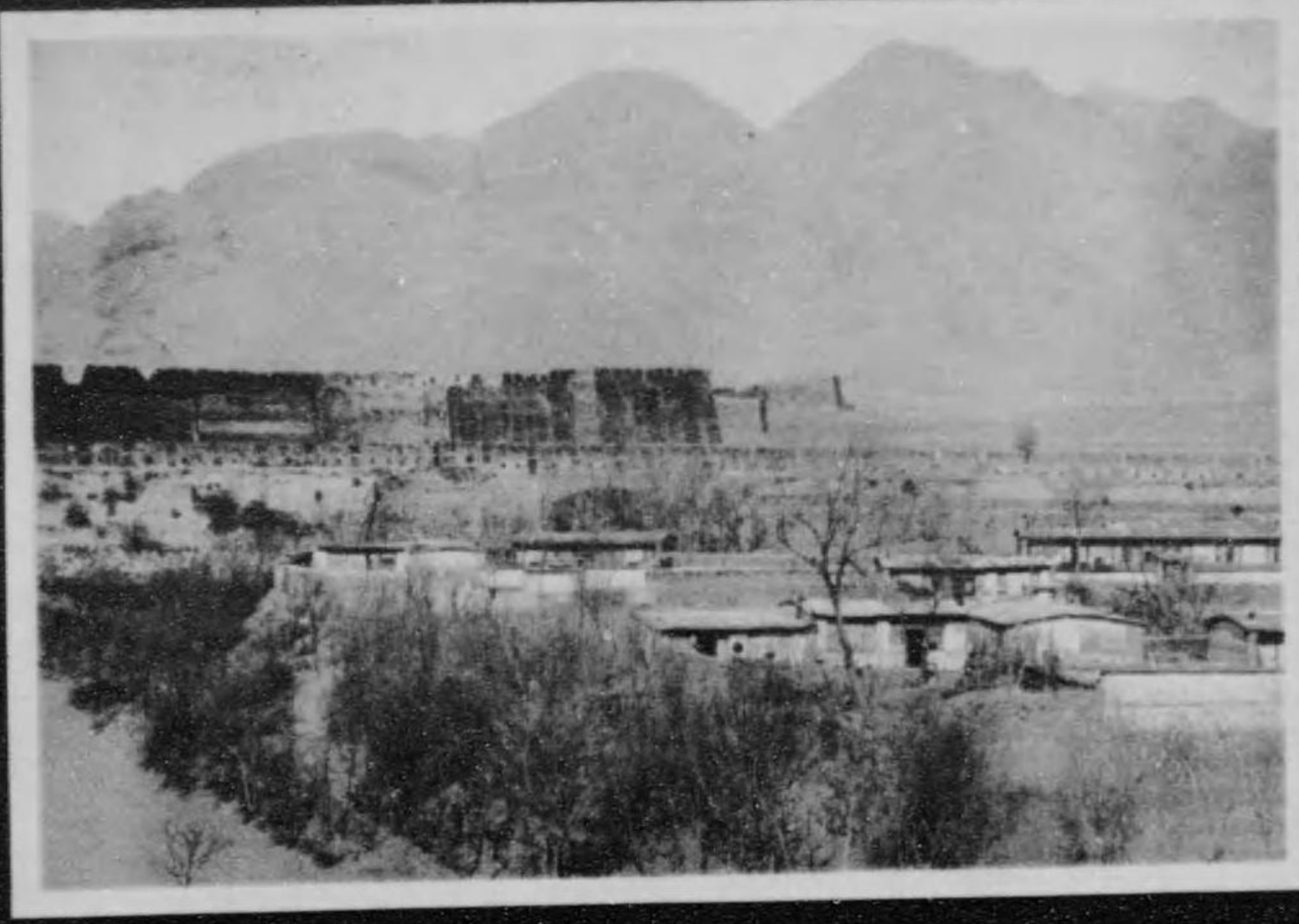
錦州は京奉線中古來からの大街道遼河の衝路に當る。此處の名産は漬物で、彼らの土産には恰好のもの、開原の庭先、露天幾十の醬室には可愛、胡瓜やまきげが自然のまゝに鹽蔵される。支那は漬物に於ても私達の先であつたのだ。

(印畫の複製を嚴禁す)



● 蒙 古 へ (錦州にて)

東蒙貿易の衝路として東西に錦州郡がある。蒙古通商は總て馬背或は駝駝に據るのであるが錦州の間屋から運ばれる物資は織物とか機寸とか色々日常の雜貨類を持つて行つて歸路には毛皮、甘草の類と交易して來る。藍の朝古城を後に軽い黄塵を舉げ乍ら馬の頭鈴の音を立て、行く處は如何にも古典的な情景である。(印畫の複製を嚴禁す)



● 山海關城壁

今から四百五十年前の築造に傳るもの萬里の長城は此の城壁に添ふて角山寺高地へと登つて行く。明末滿洲民族の興起に依つて京師の物資は常に露がされた時胡狄の防備に驚いたのが此の天下第一關である。城壁の高さ四十尺、厚さ二十尺周廻三哩に達する堅城雄壁である。(印畫の複製を嚴禁す)





● 二郎廟附近の山勢 (山海關にて)  
 恰かき盆石の配置をそのまゝの自然をゴーズとした  
 處に此の寫眞の傾角がある。處は遼西の名所山海關附  
 近二郎廟と俗稱されて居るが第二奉直戦の激戦地とし  
 て名高い。山峽を曲折して流れ来る水の清冽には一層  
 の美感を加へしめる。此の河の名物は鮎だ。  
 (印畫の複製を感懐す)



● 經石峪 (泰山)  
 泰山の徑石峪は碧谷に開かれたる約七平方尺位の  
 河床の断面を利用して金剛經を刻したもので文字の固  
 支那ならでは見られぬ偉蹟である。一字の大きき一尺か  
 ら一尺五寸方形の大文字で六朝式の書體は篆石塊麗千  
 古にその雄渾なる筆勢を示して居る。今日筆者の何人  
 なるかを確證するものがないが附近の徂徠山に在る般  
 若經の石刻と書體が類似して居るさといふので北齊王子  
 橋の書だと推定するものがある。  
 (印畫の複製を感懐す)



● 石 摺 り (泰山)

泰山の石摺りは内外に有名なものであるが、千數百年來風雨に曝された自然彫の大文字を古雅な石摺りにしたものは殊かに觀賞家の垂涎に値するものである。風のない日泰山の經石塔に行つて見ると白地の繪のやうに巖面の刻字の上に白紙が張られて石摺工は刻會に據先に墨汁をつけて紙面を叩いて居る。

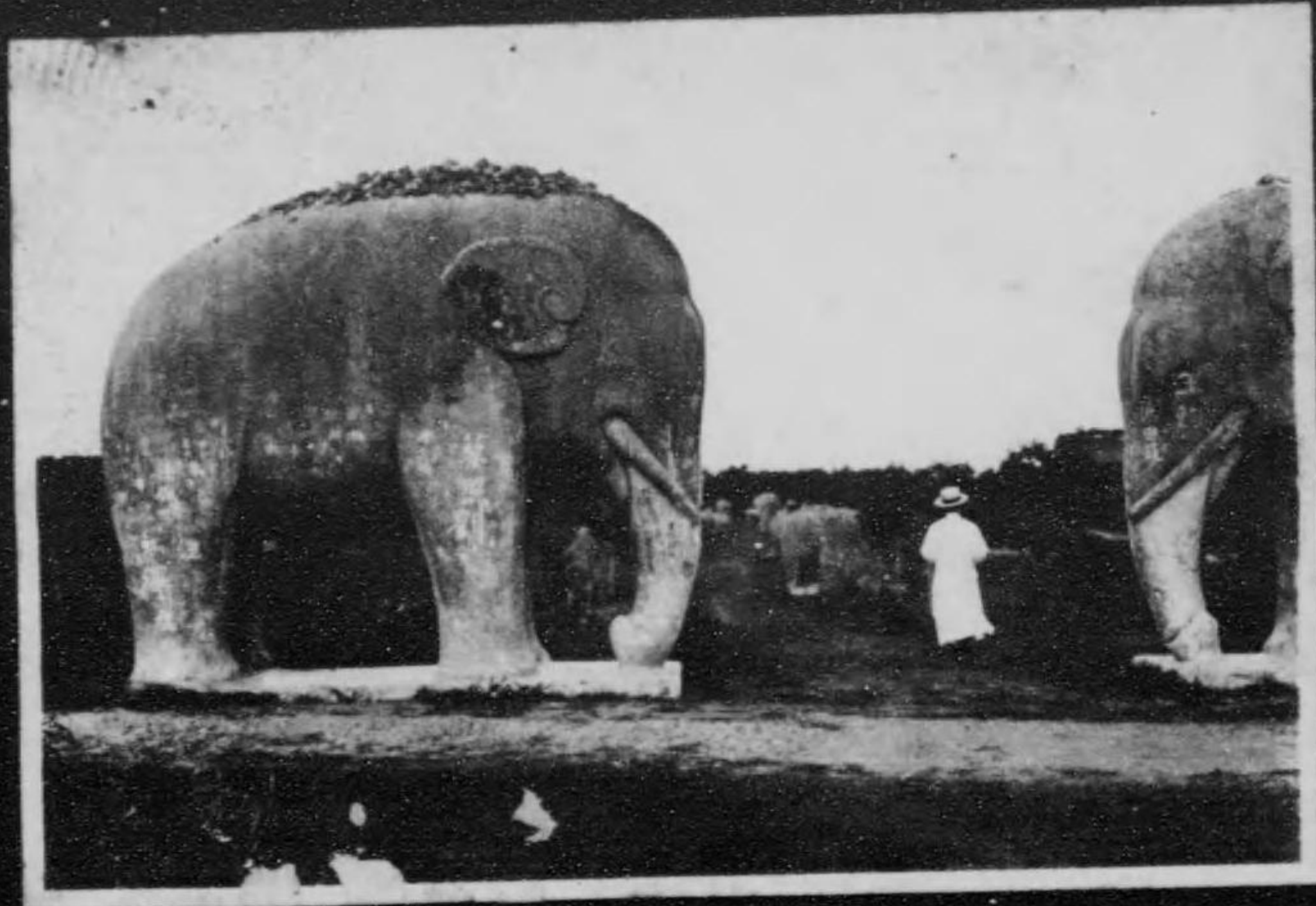
(印畫の複製を嚴禁す)



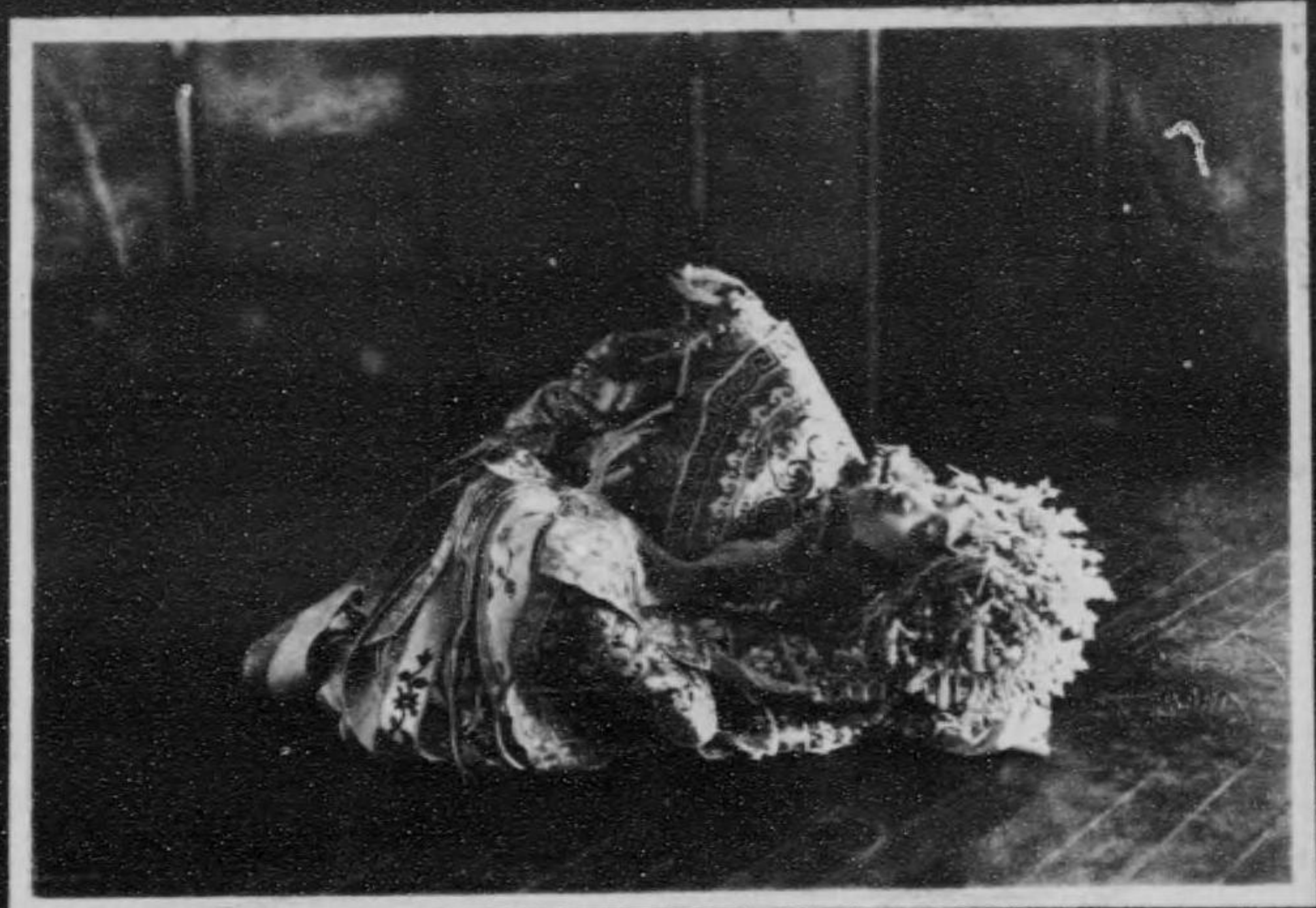
● 明の孝陵 (南京)

南京の孝陵は明の太祖朱元璋の墓である。この墓は南京の東郊にあり、その周囲には多くの松樹が植えられている。孝陵の入り口には石の牌坊があり、その上には「明孝陵」と刻かれている。孝陵の内部には多くの石の墓があり、その中には朱元璋の墓もある。孝陵の周囲には多くの松樹があり、その中には「明孝陵」と刻かれている。孝陵の周囲には多くの松樹があり、その中には「明孝陵」と刻かれている。

(印畫の複製を嚴禁す)



● 明孝陵 石獸像 (南京)  
 陵道の兩側約一哩餘の間、七八十歩毎に石像の獅子、象、駝、馬、文官、武官、等が道を挟んで立つて居る。  
 これは人畜を始め森羅万象皆帝王の陵墓を守るといふ意味から建立したものでその小さいもので七八尺、大きいものは二十尺餘にも餘るものが一塊の巨大な彫刻に彫刻されて、驚くべき異觀を呈して居る。  
 (印度の複製を模倣す)



● 楊貴妃の舞  
 支那は日本の芝居の起源より遙かに古く、既に三千年以前から組織立つて居たと曰はれる。現時中國の南北を通じて普通に見られる支那劇は二黄と西皮の兩戲曲であるが然し、こうした長い歴史を有するにも物はらず、其衣装なり、頭冠冠帽なり、劇の演出方法には大した變化はない。そのうち、楊貴妃は中國北方梨園界の梅蘭芳と並んで南方の總帥たる大立物歐陽予倩氏が楊貴妃に扮装せるものである。  
 (印度の複製を模倣す)



● 支那 戲 伎 〓 漁家樂 〓

一休支那では舞踊は餘り發達の跡を見ない、彼等の舞踊は皆々もすれば曲藝に類するものに類する傾がある、足どり手振りの動作はたゞ單に樂につれ歌に合はするアエスチエアである、そこにはまだ曲線の美はない、歌意を表現する余韻が作はぬ、その點に於て舞踏も亦劇と同じく觀るべきものでなく、聞くべきものかも知れない。

(印畫の複製を嚴禁す)



● 孔子廟 奎文閣 (曲阜)

日光廟の餘映は精巧緻密を以て顯はれ、聖廟の結構は雄大な壯麗を以て誇るゝ、何れを見たり雖く感傳されてゐる。その孔子廟内の奎文閣は金の明昌五年(一一九五年)章宗の命名したる間口九〇尺、高さ七五尺、奥行五五尺に亘る結構は壯麗を極め、幾多觀客を恍惚たらしめるものがある。

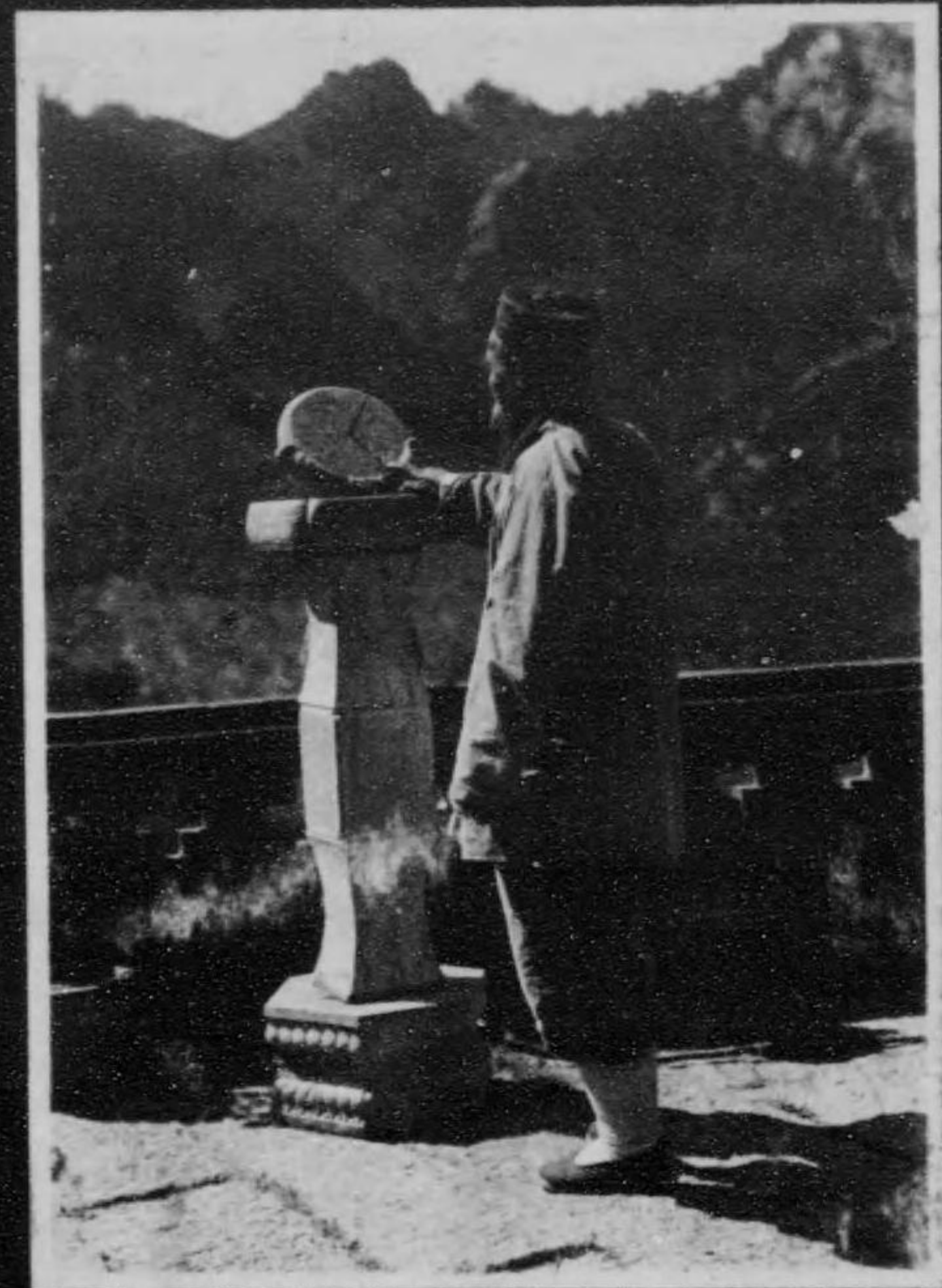
(印畫の複製を嚴禁す)



● 洙 水 橋 (曲阜)

史記に云ふ「孔子教を洙水の上に設け詩書禮樂を修む」と、其古事を憶ぼしむる洙水橋は右欄干の古色優雅な大鐵橋である。橋下は即ち「洙河」所謂洙水ではない。

(印畫の複製を嚴禁す。)



● 千山無量觀境内の日時計 (市橋)

千山の道士は白雲を衣とし、露を食とする底の幽人生活で、山中曆日などないかと思つたら無量觀の境内に計らずも日時計を見出した。道士が日時計の針影を眺めてゐる光景を見て居ると何となく原始的の感が湧く。

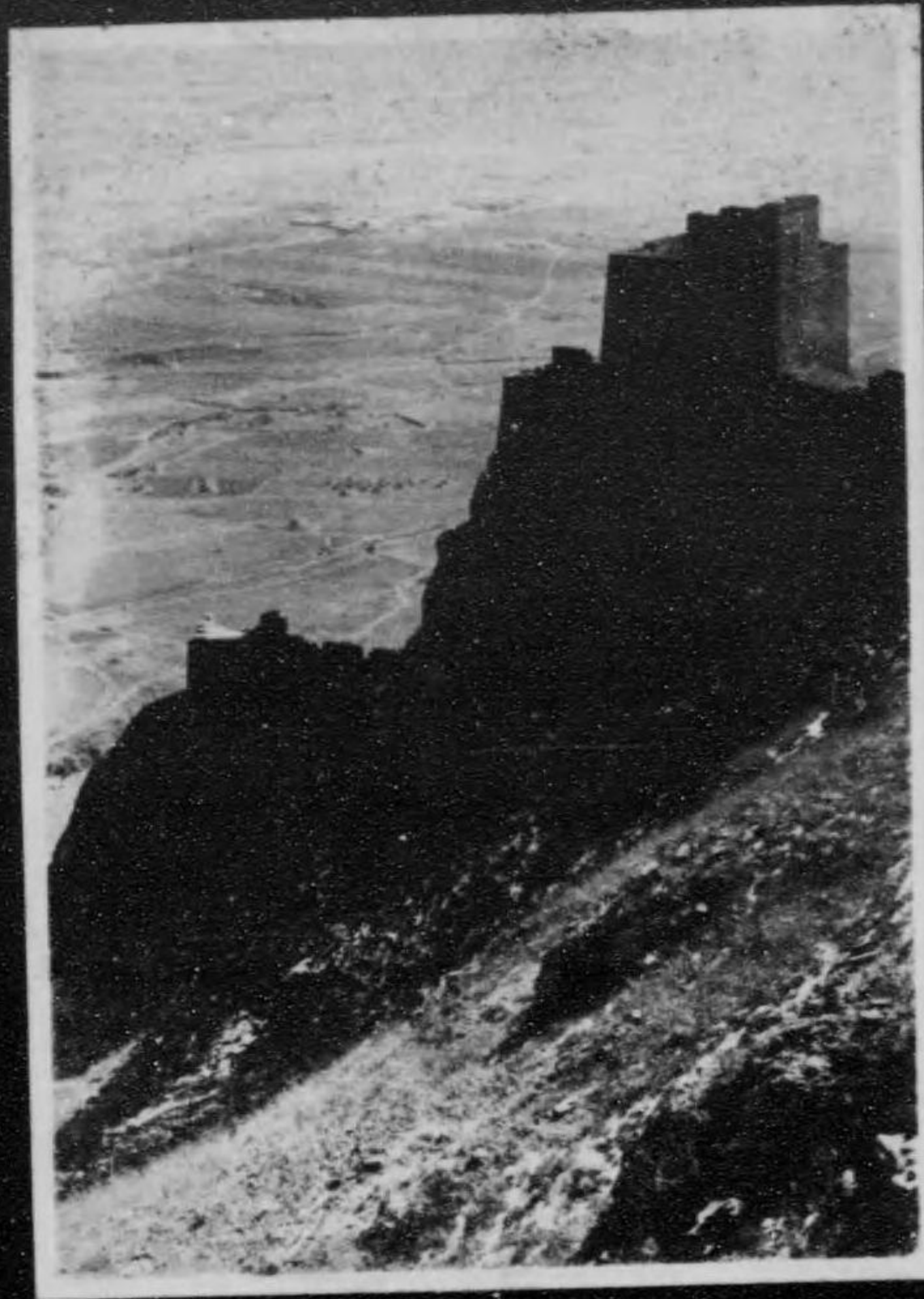
(印畫の複製を嚴禁す。)



● 鳥瞰の萬里の長城 (山海關)  
 有史上據として世界に氣を吐くものは二千三百年以前の偉業を語る萬里の長城である。一日十八回の食を給し不幸にして死する者あらば墓下に埋めて人柱とし以て國家の守りたらしめたと云ふ旧傳は今も附近の里人の間に傳はつて神業の如くとか考へられぬ偉業に現實味を投げかけるのも難ししく嬉しい事ではないか。  
 (印畫の複製を嚴禁す)



● 無量觀の展望 (南嶺)  
 自然の雄と人工の妙と此の二つの融和を欠く恐分の多い千山に無量觀は僅かに兩者を併せて氣を吐く觀がある。その奇岩に倚る布置、その懸崖中より雄大の觀野を占むる峻は、千山を滿洲第一の勝とする時、無量觀は正に此の千山を代表する名勝であつてその名聲を恥かしめぬものである。  
 (印畫の複製を嚴禁す)



● 狼煙臺 (山海關)  
 敵襲に備へる爲めに萬里の長城の所々には狼煙臺がある。臺上遙かに信號を認めて人走り、馬馳した時代を想起すると思ひは百年の昔に及び、或は千年の昔に遺へる。上方に伸びて展開する土地は關内であつて山海關に面してゐる。  
 (印畫の複製を感せず)



● 蒙古の王さん (風俗)  
 蒙古の王族も共和時代になつては名ばかりの王様になつて了つた。清朝の頃京師に参預して所謂文化生活を味ひてから、蒙古固有の嗜好の氣はこゝへから陣笠然たる官帽を頂いて今に昔の夢を繰返して居る。  
 (印畫の複製を感せず)



● 搾 乳 (蒙古)  
 生活物資に缺乏した蒙古に唯一の滋養食糧として與へられたものは牛乳である。牛乳は勿論生では保存が出来ない。貯蔵は先づ加工法の工夫から始まる。蒙古人は酒も牛乳から造る。バター、チーズの固形物を得るためには彼等は相當の苦心と犠牲とを拂つた後の経験であり發見であらう。  
 (印度の複製を模倣す)



● 蒙古包 (蒙古)  
 蒙古人の家屋を包といふ。水草を追ふて遊牧する彼等の住居は移動式であるべきは當然である。圓錐狀に圍つた黄土製と云つた恰好、骨組みは適當の枝條を矢束に結ぶに類する丈夫なものである。冬季は厚皮を以て全部之を被覆して防寒する。背後に見ゆる結核の垣根は小車を屯する處である。包も開放地に置くに從つて固定的に泥を塗つたのや窓を明けたのや段々進化したものと見らる。  
 (印度の複製を模倣す)





● 山を有する家古包 (蒙古)  
 移動式家畜の蒙古包の固定されたもの。安達羅正に  
 忠んとする一帯にある。包に壁を塗り窓を明けた處に  
 家畜としての包に進化を認めねばならない。  
 (印畫の複製を原裝す)



● 女夫船頭 (上海)  
 上海には水上生活者の群れが可なり多い。夫婦一  
 代は兎に角子々孫々船を唯一の世界として、船一枚の  
 下は地獄と稱して居るがさうは知らぬが、船一本の  
 博一丁の元手で女夫共様の世は寧ろ平和な。南方の  
 支那では船人に脚足なごなして、船のやうな歩力して  
 て居るものは一人も居ない。男と一緒で労働に服して  
 女産に努力する處にもある。孫等の孫味がある。上海を中心  
 女船運の盛んなのもある。女船頭の影も云へま  
 いが、女はその足からの解放によつて先づ新しい生活  
 に目醒めたのである。  
 (印畫の複製を原裝す)



● 小 渡 船 (上海)

河川の多い南支の風景は到る處水郷の感を起させる。従つて船運の便が發達して古から操舟の術が發達して居る。燕のやうな樽形の船好し面白いが牛圓形の屋根を設けた下には船頭の坐座を托する小天板がある。朝には乗客を迎へ、夕には送人を送る渡船業者の人生観こそ聞かま欲しい。

(印畫の複製を嚴禁す)



● 娘々廟の祭典 其一 (大石橋)

湖濱の花咲く五月の末、瀾洲の年中行事である娘々廟の祭が各地に催される。その中一番有名なのは大石橋連福山のそれである。大祭日は毎年舊曆四月十六日七、八日の三日間に涉りて、沿線の老幼數十里を遠しとせず之に参するもの何萬人たるを知らない。

(印畫の複製を嚴禁す)



◎ 満洲婦人の髪飾 (満洲子)  
 満洲婦人の風習を傳へて居るといふ婦人の異様な髪飾は祭禮の日を飾る装束としては如何にもふさわしい。  
 (印畫の複製を感懐す)



● 帆かけ一輪車 (山東省)  
 支那人は自然力の利用に巧みなものはないといふことは毎度感服せられるが一輪車に帆をつけて勞力の節約を計つて居るなどは天下の一品だ。而して支那の原始的慣習からいへば車は引くものでなくて押すものである。彼等は帆を使ふにも繩を用ゆるのも日本人の習慣から見れば皆逆な力を用ゆるのも怪である。  
 (印畫の複製を感懐す)



● 一 輪 車 (山東省)  
 車は前後と極まつて居るやうに考へて居るものは支那内地に入つて一輪車の利用の多いな見ても流俗がさされる。保し車といふもの、進化は恐らく一輪から發達したものであらう。車で調子しようといふのではない。車上の乗客に依つてその車術を調節するのだ。乗る人間も押す人間も共に七分三分の割合ひで協調をうとくやらないと危険だといふのが一輪車から得ぶコリョアである。  
 (印畫の複製を脱却す)



● 泰山の山頂から (山東省)  
 泰山連峰中に峻嶒山がある。突兀として聳立してゐる。山容は峻かに泰山連峰中の白岩である。山中には微候名所として幾つかの寺刹が深山幽谷にその景緻を添へて居る。近來旅米人の脚跡も排てられて風景客を呼んで居る。山頂に立つて白雲の来來する間から樹下に展開された山東平野を俯瞰した社説は何んとも言はれない。眼界遙かに汶河の流れが蜿蜒として白く下界に光つて居る。  
 (印畫の複製を脱却す)









● 京城全市街（朝鮮）

南山と北漢山の盆地に展開した京城の市街は、さながらの京都の街を思ひ出させる。李朝五百年の榮華を偲びしむる丹青の宮殿構も町の地位を尊いものにする。鐘路街頭黄色の覆衣をして往く婦人の姿を見たものは日本の平安朝時代を懐古するであらう。

（印畫の複製を厳禁す）



◆ 蒙古牛車（蒙古）

日本人には廣いといふ感じは海を見た時にか其最大限を意識する。然るに蒙古の平原に於て見る廣茫たる景色は眞に驚嘆すべきものがある。日は原から出でて原に入り、四方に擴がった地平線内には一物の遮るものがない。アノ草原に轍の跡を印し索り行く牛車は何處の部落をさすのであらう。

（印畫の複製を厳禁す）





● 街頭の駱駝 (滿洲里)  
 國境の滿洲里に汽車を捨てた旅人は、街頭先づ此の駱駝の一群に驚異の眼を見張る。駱駝はどう見ても町のものではない。あの背の上の瘤、生肌面な前、而して悠容として這らざる歩度を以つて進み来る彼等は野人の京見物といふ型だ。駱駝の産地は外蒙西蔵寄り地方で内蒙はその産出を見ない。  
 (印畫の複製を嚴禁す)



● 蒙古の沙丘 (蒙古)  
 汽車に別れてから幾日の旅程、滿鉄馬車に乗せた儘と雖も、蒙古の原始生活を懐いて此の方大興安嶺へ之急ぐ。開魯から杜魯特旗領への途中茫々たる黃砂の平原にさながらの巨濶の如く延綿として隆起して居るものは所謂砂丘である。七月の太陽は海約として地の底にまで照りつけて居る。砂丘は百何度の高温を示し、縦横は皆け棒寸は自然発火するといふ異態、人も正に昏倒せんとする中を西蒙内の蒙古人は騎馬で此の焦熱地帯を怒々突破する。  
 (印畫の複製を嚴禁す)



◆蒙古美人(蒙古)  
 某王の内室で、調類野郎の間に眉目の鋭くしさを流  
 へたる正に母性の典型的表情を有して居る。頭髪、服装  
 共に滿蒙婦人の風俗であるが、從に漢、蒙兩種族の服裝  
 の相異は、漢族の女性には「カ」を用ふるに不拘、滿蒙  
 婦人は男子と同一の大襟兒を着し決して袴を穿かない所  
 に特徴がある。  
 (印畫の複製を嚴禁す)



●新萬物相 (其一)  
 天下の絶景として賣出されてゐる金剛山一萬二千米峰  
 中で然も金剛山を代表する景は萬物相だ、殊に新萬物  
 相の景は正に天下第一品人間の發明した言葉や、寫眞  
 では此の大自然の藝術は到底成げし得ない。金剛第一  
 關と謂ふ石門を濤り穿うじて覗く、脚下幾千丈とも知  
 れず鋭く削立してゐる力強い男性的の景だ。路の餘り  
 に險峻なため萬物相丈で大批の人は引返すが、新  
 萬物相を見ずに金剛山を語る資格はないのである。  
 (印畫の複製を嚴禁す)



◆ 美しい崖底の港 (金剛山)

白砂長汀は美しい海岸を表す爲には附きものも言葉だが、往々いかに、白砂長汀がある、然し我が東海海濱のそれは本に純白だ、松の葉、碧玉の如く澄んだ日本海、年が年中洗ひた洗はれた真砂には垢一つない、純な景色だ。附近の茅葺屋も周囲の景と調和して、えも云はれない美しい景色となつて眼底に入つて来る。

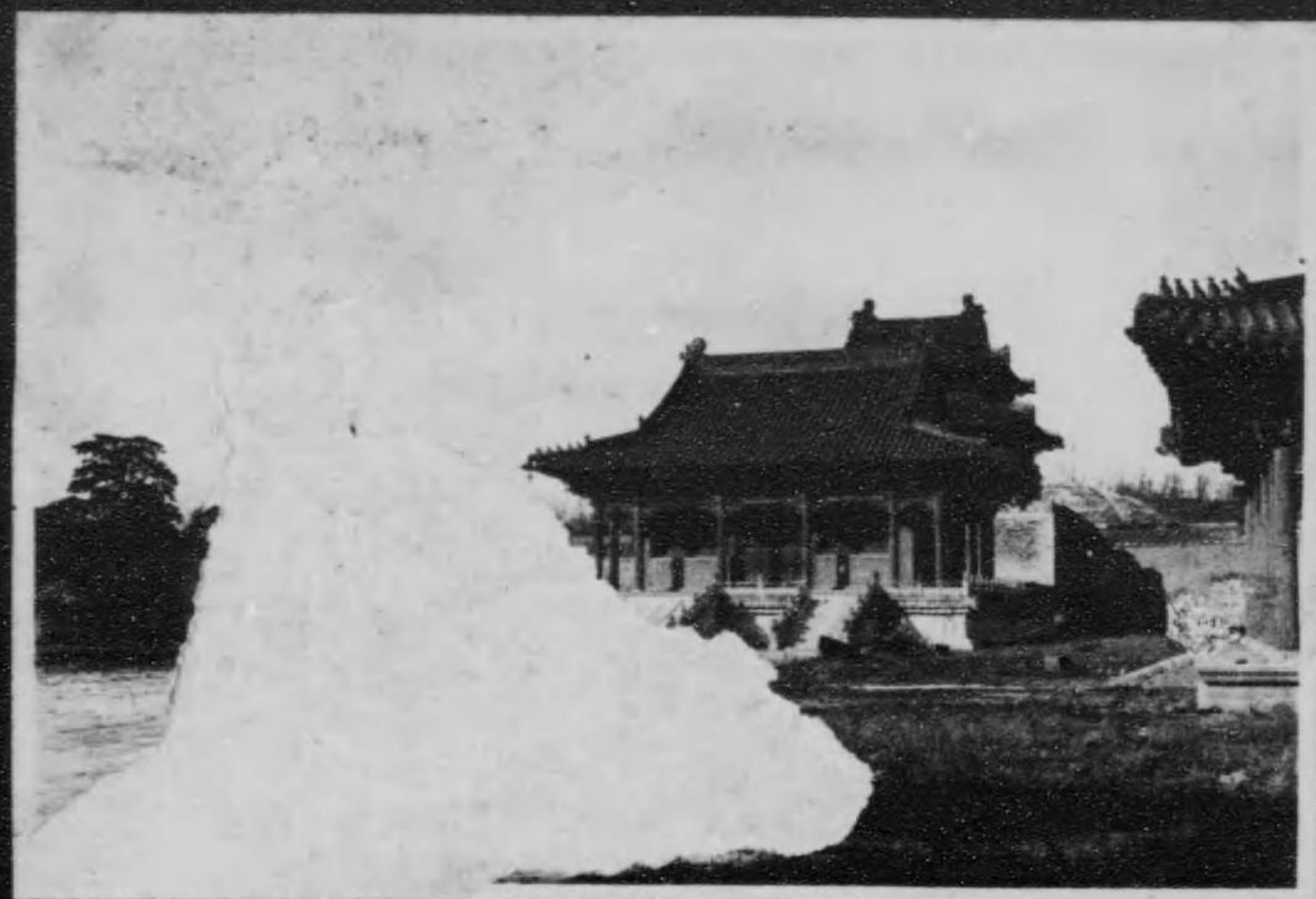
(印畫の複製を嚴禁す)



◆ 奉天四平街通り (奉天)

奉天四平街は東京の銀座に等しい繁華な街で支那式色彩の麗る濃厚な街である。

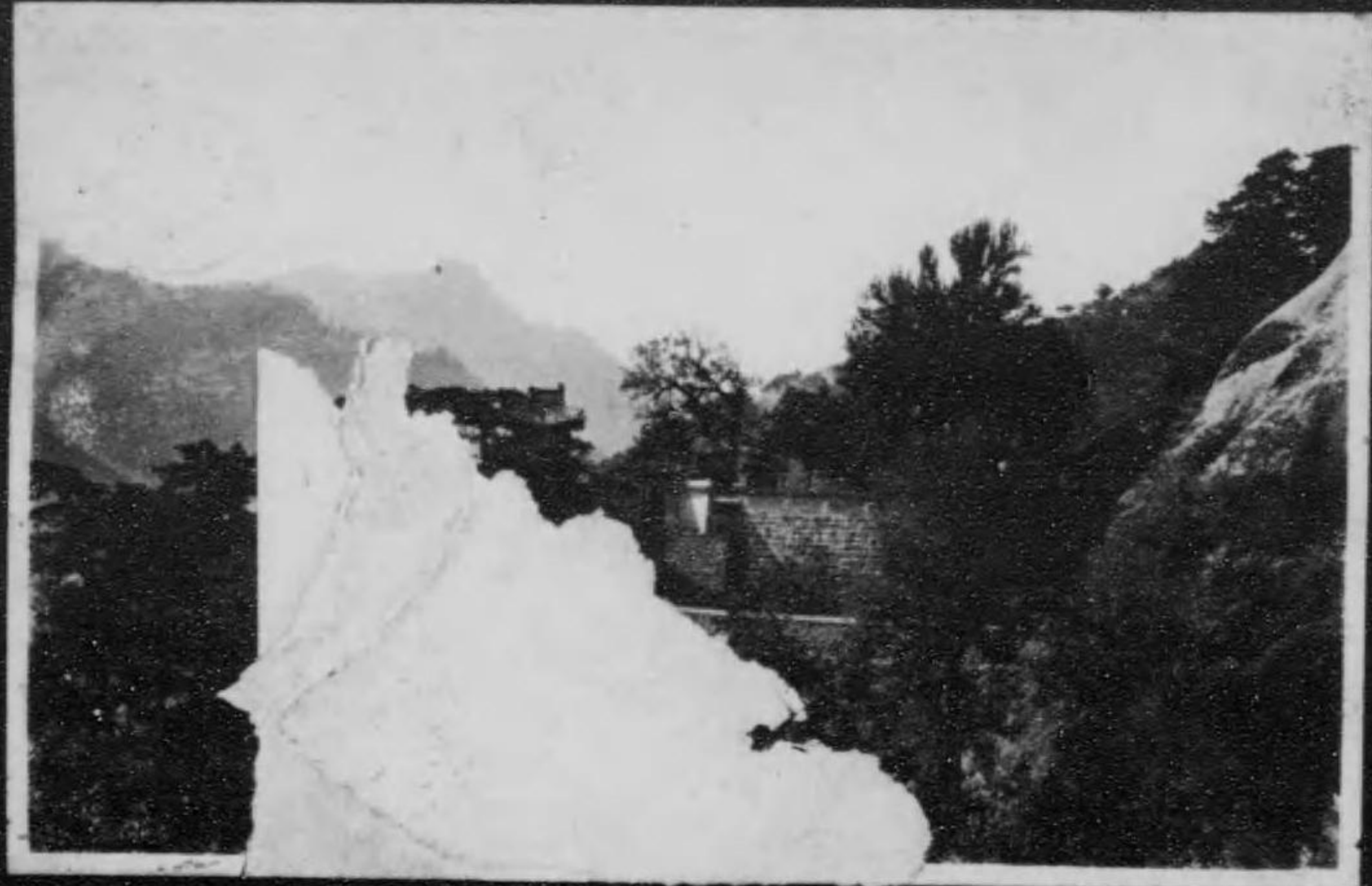
(印畫の複製を嚴禁す)



◆北 陵(奉天の史蹟)  
 北陵は昭陵とも稱し其の丘を隆業山と名づく。奉天城の北方里餘の所にあり。順治元年八月太宗文皇帝の靈柩を葬りたる所、其の規模宏壯にして松杉鬱々奉天唯一の清涼地である。  
 (印畫の複製を嚴禁す)



◆道 士(風俗)  
 千山寺觀の一として著安觀がある。道士の修する處で棚前古鐘を懸垂して山嵐に響き傳ふる所など全く一部の活劇である。道教は弟子を組出し神仙を加へて説明したもので結製した頂上に道明を冠り宣稱を聽ふて居る。霞を食し風を御して悠々自適自然生活をして居る。  
 (印畫の複製を嚴禁す)



● 無量觀 (千山)

千山は遼東第一の仙窟である。巨麗奇峯老松の間に  
 建立してその景色雄大たる處寺觀の見るべきものが多  
 い。その中無量觀は最も名高い。明の徐文華の詩に  
 雲煙回合水涵輝。踏轉險崖百折遲。  
 上界鐘聲海湧音。前山塔影夕陽間。  
 松濤漲壑千巖響。花雨浮空滿地塵。  
 座久忘身疑謫入。恍然萬出世人寰。  
 好く千山の景観を寫し得て絶である。  
 (印畫の複製を嚴禁す)



◆ 大廣場の夏 (大連)

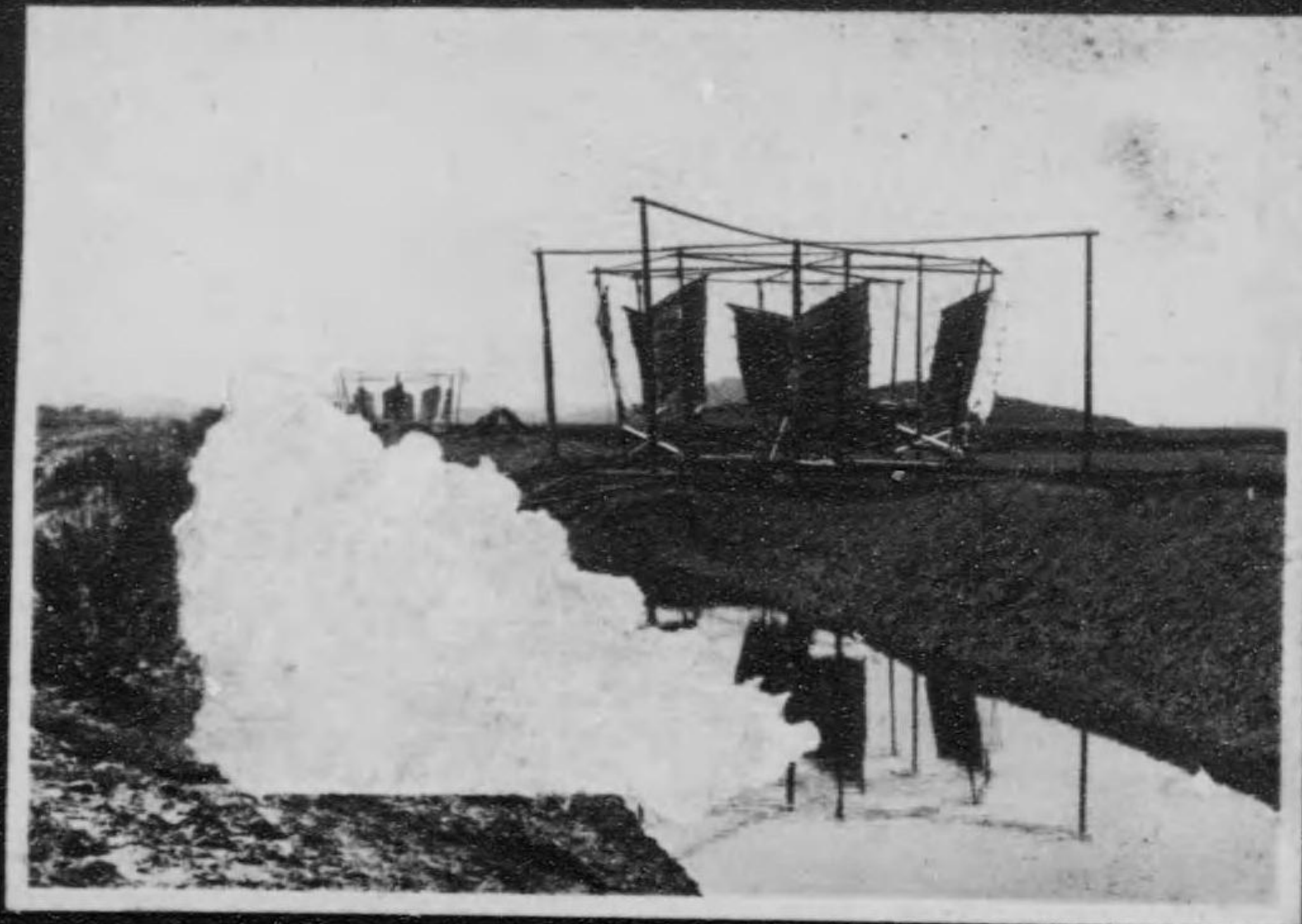
大連大廣場のロビー、グラウンドは緑の毛氈のやう  
 に初夏の光に輝いて居る。朝影金色の間を繞うて行人  
 の笑ひも軽やかに見える。そしてサトウハチルのルーフ  
 ガーデンにはオリーブネトラが流れ、紅色の電光が輝き夏  
 の夜を飾る唯一の納涼場を開展する。  
 (印畫の複製を嚴禁す)



◆大連市浪速町通り(大連)  
大連市中最も繁華な小賣  
商店區域で毎夜街頭に夜店が  
立って繁華を極める。  
(印畫の複製を禁止す)



◆苦力部落の一角(支那風俗)  
苦力が毎年春先山東から海を渡って滿洲にやつて来る  
數は大連ばかりでも數萬に上る。彼等は船から上陸する  
や否や直ぐに労働に従事する所して積々土地に定着する  
やうになれば何處から集めて来たか知らぬが木材の端切  
れとアルペリと其處ら有り合せの泥で獨立小屋を作つて  
生活の根據とする。此の獨立小屋は常に或る集團をなして  
て郊外の野原や山嶺には屋上などに時は一夜にして  
一部落を出現することがある。此處はは大連等兄弟の  
海岸近き陸上の斷崖に出来たアイビカルの苦力部落であ  
る。(印畫の複製を禁止す)



◆鹽田潮汲用風車 (産業)  
關東州内は天日曬地として有数な地位にある。現在  
年産額三億斤の生産は將來發展の地がある。潮汲用  
風車は我々の帆から思ひ付いた頗る巧妙な而も原始的な  
動力で、支那人の自然力の利用の巧い處が窺はれる。  
(印書複製を厳禁す)



◆街頭のエピソード (北浜)  
街の踏切りを越して追ひかけて来たロスの青肉屋のド  
ビンスキイが、支那人の百戦を呼びかけてまたしても野  
菜の値段を値切つて居る。海苔師は東支線中に於ける非  
常に豊饒な野菜の生産地である。  
(印書複製を厳禁す)



◆ 郊外の平和郷 (北滿)  
 哈爾濱に行つた氣まぐれに、あの地の近郊をカメラをか  
 かついで歩いたその折、郊外の田園にセトルした波蘭  
 人の一家庭を見出した。歐州戦争の際、戦禍を蒙つて子供  
 が日本に救済されたといふ経験の持主であつたので、固  
 らずも豊饒の御馳走に預かつた。何時の頃から來住した  
 のか聞きしなかつたが牛を飼ひ鶏を養つて畑や肉や野  
 菜には事欠かぬ旨しいと華やかな日を過して居る。  
 (印象の複製を嚴禁す)



◆ 高粱の刈入 (風俗)  
 旅順に鶴の群が北風と共に飛んで來  
 る頃にはソロ／＼高粱の收穫が始まる。  
 そして今迄嘗かつた畦が次々と一畝畝  
 士の平原に立ち戻つて行く。

(種族番號 一三七)





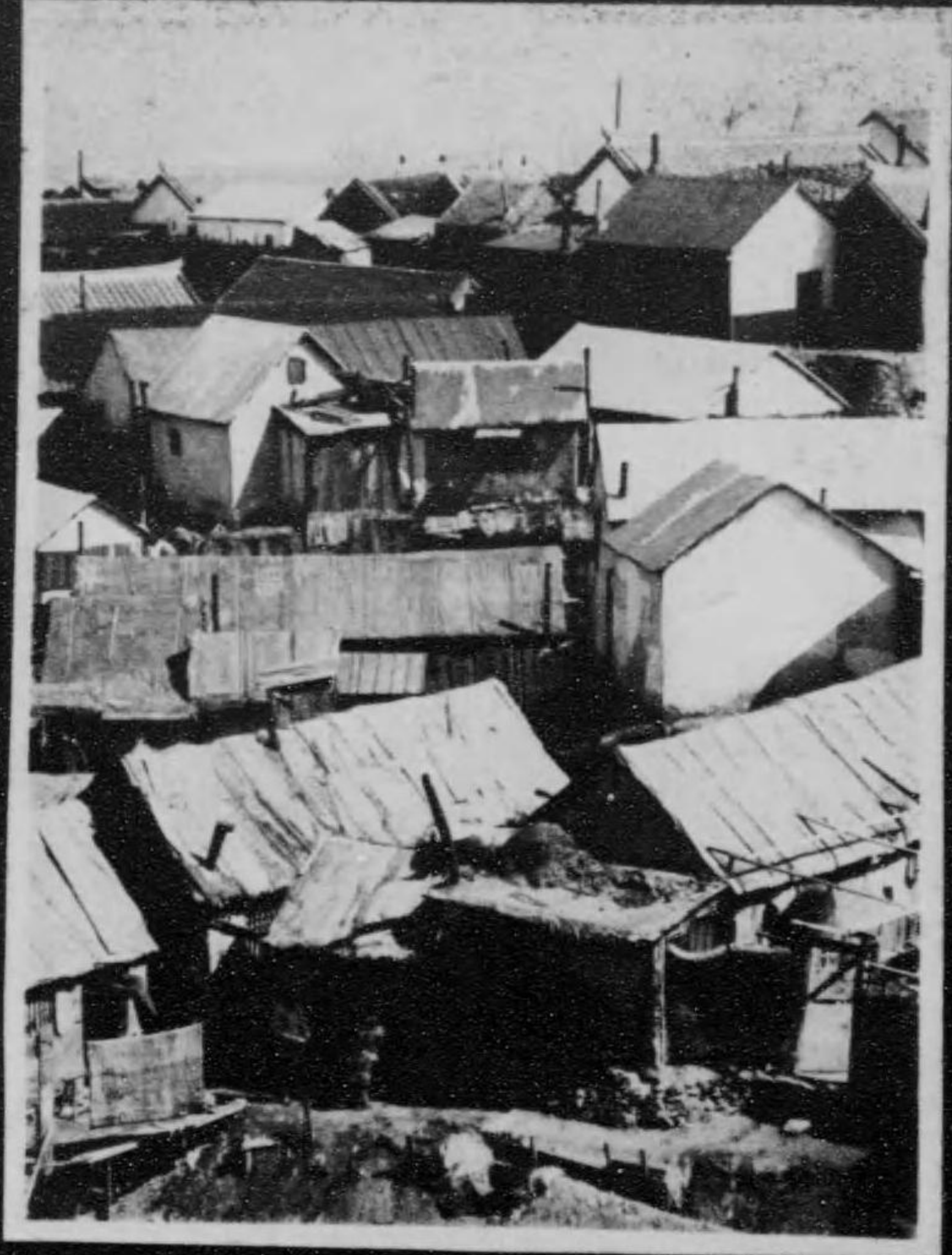
◆高梁の脱穀(風俗)  
 十月高梁が刈獲られると農家の前庭に堆高く高梁の園が出来る。而して農村には大抵共同作業場があつて其處で毎日脱穀が始まる。驢馬は最も忠實な農家の共勞者だ。  
 (印書の複製を嚴禁す)



◆太連市役所(大連)  
 大廣場を中心にして雄渾狀の道路を纏繞せしめてゐる大連の市街は、その大廣場の一角に市役所の堂々たる輪奐を置いて其道路の如き細路の市井凡百の事務に秩序せしめ、自治都市としての面目を誇つてゐる。  
 (印書の複製を嚴禁す)



◆大連小崗子(大連)  
大連の支那人街である。既述の曲折した  
盧金有板の抑々しい色彩に先づ支那人  
分が横断して居る。小崗子は十二萬の  
人口を擁した支那人街である。  
(印畫の複製を厳禁す)



◆寺兒溝苦力部落(大連)  
量は時に量ならざる處に生る。東洋の文化  
都市を跨る大連市の東南端、寺兒溝の苦力部  
落も一度レンズを通ずれば、皮肉な文化の半  
面がある其處の複雑問題を變じて一畫繪とな  
つて吾人の眼底に映じて来るのも妙である。  
(印畫の複製を厳禁す)



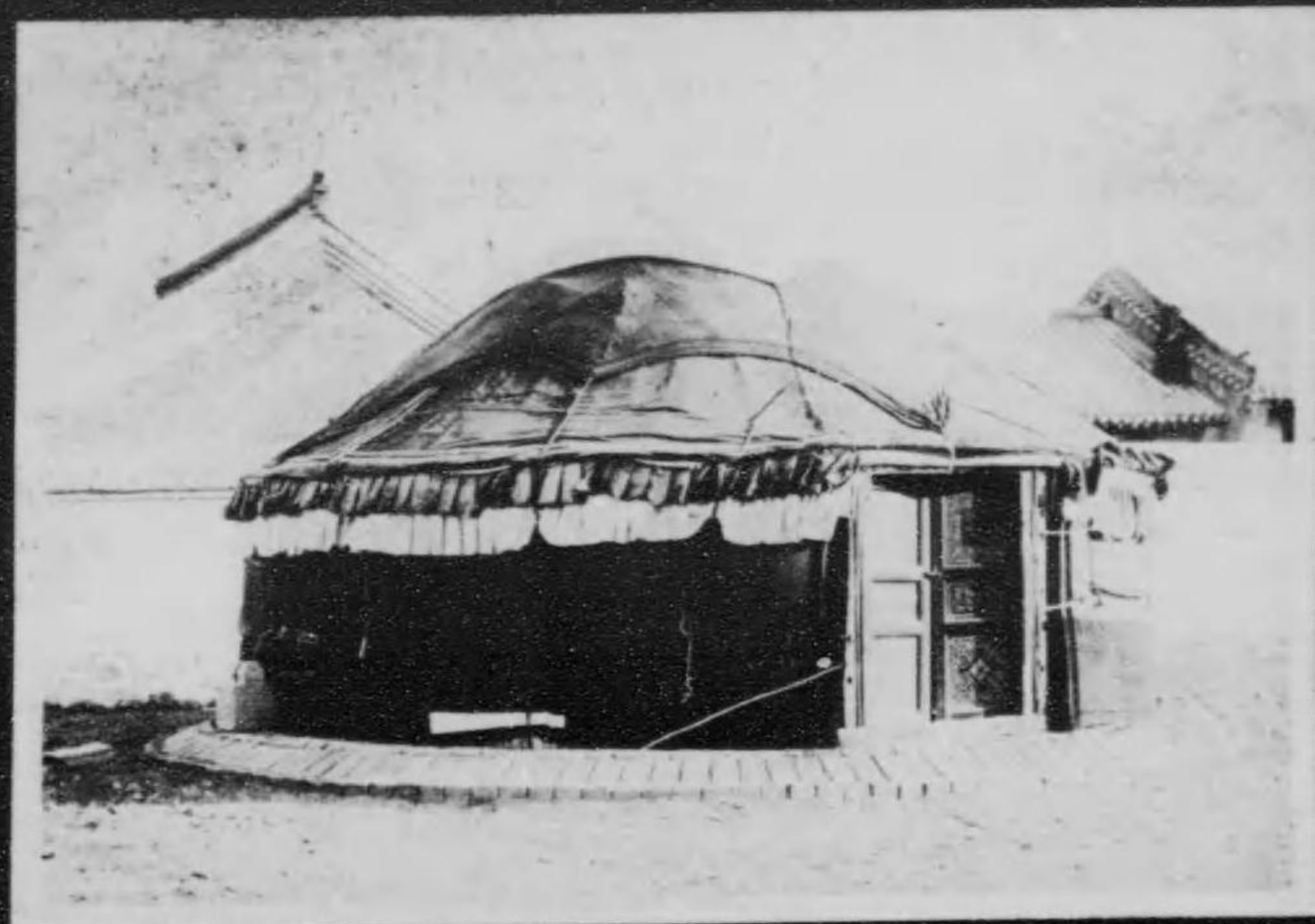
◆ 娘々廟の祭典（大石橋）  
 娘々廟は超公明の三昧堂と遊射と理射を祭神とした  
 もので農民の祭礼者が多い。高梁の種子等は既に終つて  
 緒土の轉原が千條の畦に依つて整へられて居る。農家の  
 若輩の畜が初夏の風に先つて、四頭立の畜馬車は今日は  
 祭典した村の結核、ターニヤン種を牽せて娘々廟へと運  
 ぶ。  
 （印圖の複製を禁ず）



● 放 牧 （蒙古）  
 蒙古人の生活は牧畜を基本とする。牧畜が人生に於  
 て天地間唯一の作也はその家畜である。牧畜が日常の  
 操業にも先づ以て家畜の恩恵、牧草の有無を尋ねて、す  
 ら後用議に移るが、畜は、而して牧畜の最も怖るゝも  
 のは旱魃と大雪である。旱魃は水脈を絶ち、大雪は牧  
 草を雪中深く埋め隠して了ふ。それがたゞ家畜は飢餓  
 甚だしき時はその大牛を凍死せしめることがある。  
 （印圖の複製を禁ず）



●牛糞の貯蔵 (蒙古)  
 蒙古人の牛糞の利用は之れを燃料とするばかりでなく住居の塗りに用ゐる。固結したる此牛糞は彼等が冬季を通過するためには如何に貴重な燃料であるか想像の外である。蓋し蒙古人は草を刈る勞を牛を以て代用せしめ、牛がその糞を牛草に依つて受け、而して排泄したその不物は燃料として利用するといふ自然と人間の生活に於ける交互作用が少しの無駄もなしに遺憾なく實現されて居る。  
 (印畫の複製を感せず)



●蒙古包の裝飾 (蒙古)  
 某王府の蒙古包の外観を黄、紺、黒などの毛氈を以て被覆して裝飾をした光景だ。之れは主に冠婚葬祭の儀式をする場合に行はれ内部には王座もあり、卓子、其他の調度などそれなりに立派なものが用ゐられてゐる。  
 (印畫の複製を感せず)



◆井 戸 (蒙古)

蒙古の井戸は生ける凡在ゆるもの、生命である。偶然に見出された一箇の水源は何百年の昔から地下の水脈に依つて流れた此の無水の世界への唯一の天恵であらねばならぬ。何處よりか持ち来たされけん一本の木の板の瓦材をくり抜いた水槽は半馬羊の幾千と数へらるゝ家畜のために飲料水を供給されるものである。

(田舎の複製を撮影す)



彌勒池

◆九 龍 淵 (金剛山)

羅浮山から神湊寺、王液河、飛龍潭等の細峽を過ぎ、二里餘進んだ頃大壑を劈けよと降しする一箇がある。是れが山中第一の巨潭で高さ百七十尺、日昇龍殿の潭に擬るとは云はないが潭上、潭下一箇一枚の磐石からなつて夫れに穿たれた面積五十坪、水深四十尺の淵壑の深さは到底龍殿の夫れが及ぶべくもない、淵上且つ神梯的のものだ。潭壑の向つて左側に六尺餘の人工を立たしたのだがボーリーの如くに衰れに小さく見える。五十三佛に造られた九龍は潭上の八潭と潭下の龍壑に住んでゐたのだと謂ふ。成程、龍もさうな凄まじい光景である。

(複製番号 三五六)



◆ 冬  
の 千 山

夏の千山は十分に紹介されてゐるが、冬の千山は未だ神祕の仙境として氷雪の下に隠れてゐた。此の寫眞は千山三難障の一として知られてゐる羅漢洞から見た景色で、空冥清明の氣、山嶺は容易に吾人を近寄らしめない感がある。

(印畫の複製を嚴禁す)



◆ 玉女峰山頂より見た彩霞峰の雄姿

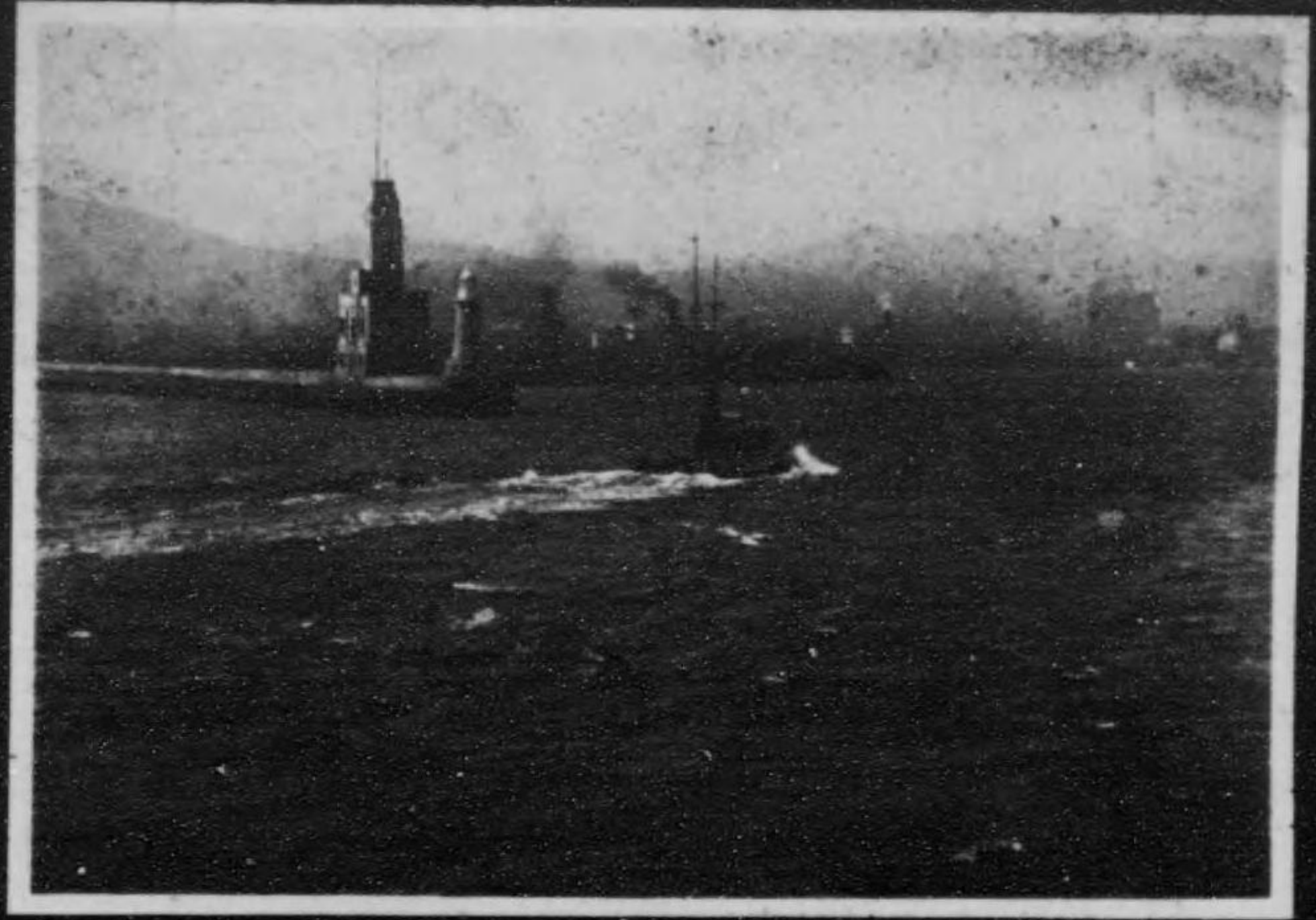
(金剛山)

萬物相の一部と觀音達摩及び彩霞峰に雄姿を凌駕レシメよつて寫し出したしのだ霞霧の推移につれて刻々變化して行く彩霞峰の雄姿は「嗚呼！何たる崇高な景であらう。

(印畫の複製を嚴禁す)



◆冬の千山  
 千山の春、夏、秋、共にそれらの趣きはあるが、雪に飾られた冬の千山の景とは比すべくもない。紺碧の空、無限に連なる白砂の遠山、魔の如に響いてくる暗黒色の瓦葺、此の崇高無比な景に富麗した自分は今更に造化の作る偉大な藝術に驚歎する他はなかつた。  
 (印畫の複製を厳禁す)



●大連港口 (大連)  
 大連港は延長一萬三千餘尺の防波堤を以て東西北三方が閉ぢ、港内九十四萬坪の海面に三本のピアが突出して居る、その延長一萬二千六百三十八尺、一時に十五萬噸の汽船が繋留され、年額約四百五十萬噸の貨物を吞吐する。商家の支那なるに equal がない。  
 (印畫の複製を厳禁す)



● 定期船々客上陸 (大連)

内地からの定期船が到着して、乗客の上陸する光景である。左側に見ゆる建物は乗船客の待合室で、内外の通商貿易、共に東洋に其の比を見ざる立派なもので乗降客はペランダより突出してゐる加蓋式乗降梯によつて乗降する。

(印畫の複製を嚴禁す)



◆ 劍の舞 (朝鮮)

妓生は朝鮮の歴史を語る花である。もと李朝時代官妓として養成されその舞臺にして古雅なる處は今尚市井の間にも珍されてゐる。そして平壤には妓生學校のある事は人も知る所竝に京城朝鮮ホテルの舞臺に於ける官妓の舞の舞である。

(印畫の複製を嚴禁す)





◆朝鮮の婦人（風俗）  
 「類版の美、それは朝鮮婦人から感受する一つの印象だ。薄絹黄か或は水色がかつた裾長の裳を穿いて上半身白衣に包んだ女の装束は、それ自身既にセンチメンタルな感じである。顔の端んだ唇肉に溜み微笑はむしろ凄艶ではないか。」  
 （印畫の複製を厳禁す）



◆沙漠の日の出（雲半日）  
 蒙古包の中に暫し假寐の夢さめた旅人達は、地上未だ夜の影の如く間に、またしても沙漠の風を急ぐ。看よ、東方漢々たる沙原のみなた、黎明の空は芙蓉色に染め出されて日の出を待つ沙漠の物氣はアリスムの如く清い。  
 （種別各號 三五八）



● オ  
ボ (蒙古)  
蒙古族にはそれらの族と呼稱する各蒙  
古王族、屬領地がある。その境界を劃する  
標基をオボと稱して居る。  
駱駝の糞とオボのコントラストが面白い。  
(印畫の複製を嚴禁す)



● 赤い哈爾濱ステーション (北編)  
今はや赤霧の旗下に支配せらるゝ東支鐵道の中央  
ステーションとしての哈爾濱は、日本に取つても伊藤  
公の死を懷想せしむる深い印象がある。歐亞兩民族の  
勢力が接衝交錯する國際地たる哈爾濱の價值は兎に  
角として、一度あの昔いかにかされた後のプロフトラ  
ムに降り立つた旅人は、構内のあわたしい雜沓の  
彼方に華を祭るかすかなる編織のゆらめきを目にし  
たまさか知れぬ旅情の寂しさを感ずるであらう。  
(印畫の複製を嚴禁す)



● 哈爾濱市街 (北端)  
 露西亞が五十年前極東に手を延ばして松花江畔の一  
 地點を選定したとき今の哈爾濱は唯だ産鉄の中に見出  
 された一個の鐵礦場に通きなかつた。然るに東支鐵道  
 東西兩各線の中央集合地點として、西歐文明の一大文  
 化都市が基年ならずして現顯し、何事にも「チナ」の  
 露西亞人氣質は時代が白に變らうが赤にならうが音樂  
 と酒と女の歐洲の世界を實現してゐる。  
 (印畫の複製を許す)



◆ 大連港の凍結  
 大連の冬は十一月頃朝吹く風と共に先づ陸から来る、  
 陸上の山も人も全く冬籠つて了つても海は未だ薄氷  
 として青い水を流して冬の巨人と對抗して居るかに見え  
 た。さして居る間に一と度遽然として零下十幾度といふ  
 大寒が來襲すると海上は一夜にして全面玻璃硝子に敷きつ  
 められる。而して凍つた此凍校地にもやつてゐた船は大衆  
 盤上に配せられて美しい世界を展開する。  
 (印畫の複製を許す)



◆南支那の戎克（大連）  
 戎克は如何にも古奥的な船である、古い支那そのもの、  
 如く、戦争と船と貿易とを載せて、編組の羽のやうにアノ  
 褐色の帆を揚げた姿を見るものは、マドロスの傳説の中に  
 見出す性質を思ひ起させるであらう。  
 殊に南方から来る戎克には船體の輪縁部を緑青色に装  
 飾した美しいものがある、北方の港大連の海上に凍結した  
 處は南方の差船を在捕つた形である。  
 （印畫の複製はお断りします）



◆滿洲の娘（風俗）  
 銀十七八懸ゆる頃は美しい。前髪を厚く切下げて顔を  
 深くかくした下には、柔かい二つの瞳は何ものかの幻影  
 を追つて輝いて居る。水色の大襟の下に鶯色の袴子を  
 穿いた娘の姿は、畦野に見出さるゝ一つの自然美で  
 あらねばならぬ。  
 （種板番號 三八六）



● 石臼を挽く驢馬 (風俗)

支那の農家は家畜を色々な動力として利用することはないが、巧みである。驢馬が口も眼も全く隠されて石臼の周りを四六時中神妙に勞役に服して居るのは如何にも可憐である。農婦はあの小さい足を、チヨコ／＼させつ驢馬を馴し乍ら高粱や蕎麥の粉を挽かせて居るのも美しいコントラストだ。

(印畫の複製を嚴禁す)



◆ 茂林廟本堂 (蒙古)

境内一千の喇嘛僧を收容して居る。本廟の規模は頗る宏壯なものである。活佛を中心に昔は随分修葺堅固にやつて居たものだが、近頃は風紀が亂れて居るとの噂だ。

(印畫の複製を嚴禁す)



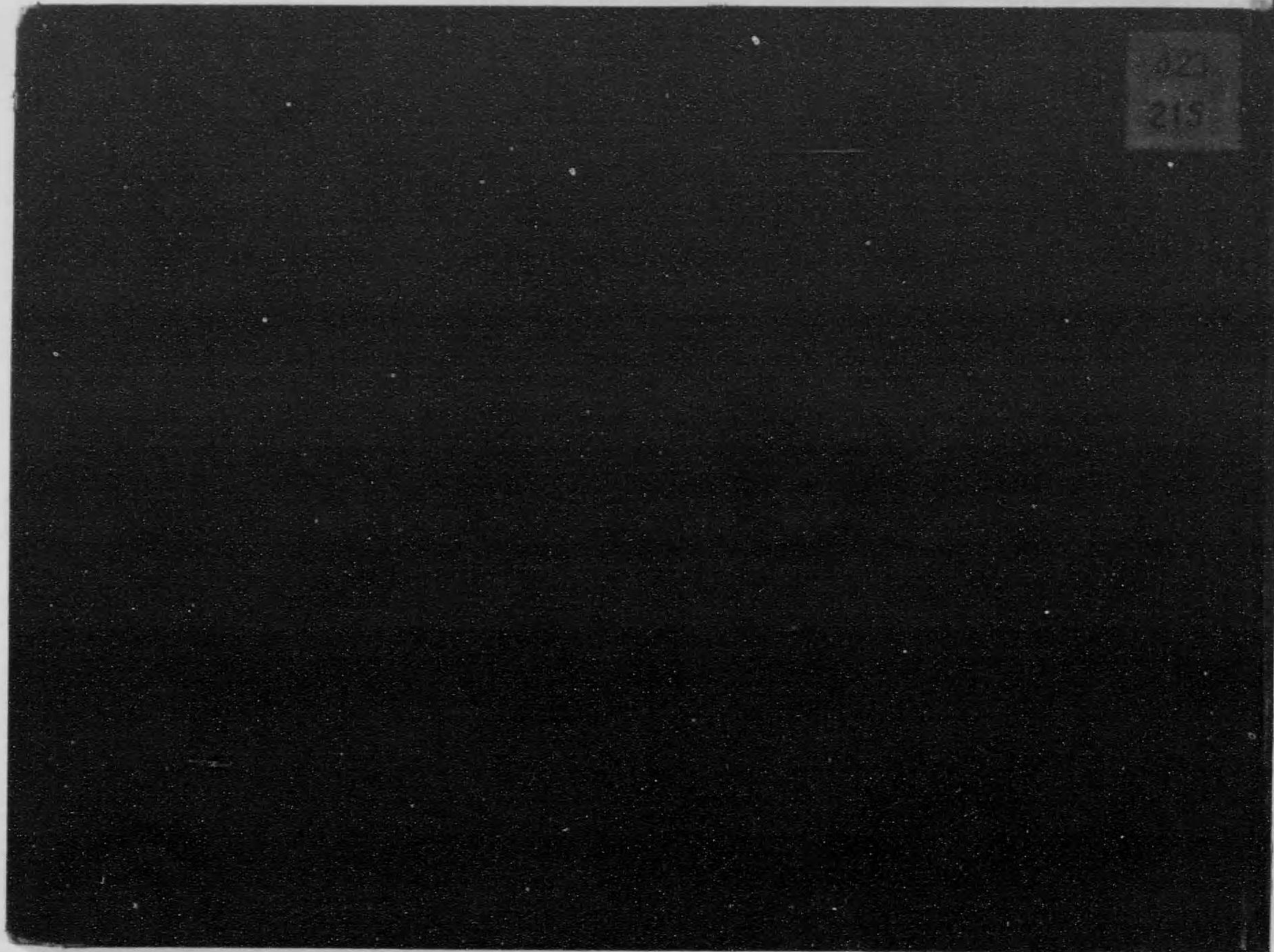
◆ 蒙古牛車 (蒙古)  
 日本人には狭いといふ感じは海を見た時にも其最大  
 限を感得する。然るに蒙古の平原に於て見る廣茫たる景  
 色は例に類すべきものがある。日は原から出でて原に  
 入り、四方に擴がった地平線内には一物の遮るものが  
 ない。アノ草原に種々の跡を印し走り行く牛車は何處の都  
 落をさすのであらう。  
 (印畫の複製を嚴禁す)



● 千山龍泉寺 (千山)  
 千山の寺廟中一番大きい  
 ものは龍泉寺と云ふ。寫眞  
 は同寺の全景である。  
 (印畫の複製を嚴禁す)



● 水稻の收穫 (風俗)  
滿洲にも近頃水田が出来て立派な米が穫れるやうになつた。最初支那人は水田を作る事を知らなかつたが此の頃では盛んに耕作をやり出した。滿洲米の産額は昨今約七十萬石と謂はれて居る。  
(印鑑の複製を嚴禁す)



終